

第15回 京都市子どもの豊かな心と規範意識を育む関係者会議 摘録

- 1 日 時 令和3年2月26日（金）10時00分～11時00分
- 2 場 所 京都市教育相談総合センター 会議室
- 3 出席者 伊丹・岩井・大森・岡田・岸本・國重・小槻・小林・佐藤・塩川・柴田（代理出席）・柴原・大黒・高橋・巻田・村田・室（代理出席）・吉田（委員は五十音順，敬称略）
- 4 内容
 - （1） 開会，挨拶
 - （2） 説明・取組報告・協議
 - ・ 令和2年中における少年非行の状況について
 - ・ 心のケア，規範意識の育成等について
 - （3） 閉会

令和2年中における少年非行について

（京都府警本部少年サポートセンターからの説明）

- 非行少年の検挙・補導状況として，少年非行は減少傾向である。刑法犯の数値としては，統計が比較できる昭和23年以降で最小の数値であり，平成22年から11年連続で減少している。

減少の要因としては，子どもの数が減っただけではなく家庭や学校での規範意識の醸成によるものだと考えている。

少年非行は減少しているものの，触法少年における小学生の割合は増えており，触法少年の低年齢化が懸念される。今後は，これまで以上に触法行為の抑制にむけた，少年や保護者の規範意識の向上に向けて施策を推進していくことが必要だと考えている。

- 薬物乱用少年の検挙・補導状況については，令和元年からは増加している。

大麻については，覚醒剤より罪悪感が希薄である。タバコより依存症にならない。害が少ないという間違った認識が社会にあることが増加の原因だと考える。また，SNSを介しての違法薬物入手が広がっている。令和2年中に実施した，中高生に対する違法薬物等に対するアンケート調査結果においても，大麻の有害性に対して誤った認識をしている者が相当数いることが分かった。

高校生や小学生の大麻使用の報道があった平成27年以降，大麻事件の検挙が増えている。今後，小学校高学年からの薬物乱用防止教室の受講を推進するなど，違法薬物の危険性を正しく認識させる取組が必要である。

- 不良行為少年の補導状況としては，減少している。

深夜徘徊が最も多いが，昨年と比べると大きく減少している。減少の要因として考えられるのは，新型コロナウイルス感染症対策による外出自粛や，休校期間，オンライン授業などがあったからだと言える。今後も警察としては，学校や保護者，地域で活動していただいている少年補導のボランティアの方々と連携をとりながら，子どもたちの規範意識の向上に向けた取組を推進していきたい。

（生徒指導課より補足）

- 前回の会議で小学校での暴力件数が増加傾向であると報告させていただき，今回の報告で問題行動の低年齢化の傾向も見えるが，現場の感覚で言うと，かつて校内暴力で学校が荒れていた時のような状況ではない。
- いじめの認知が進む中で，児童間のケンカなども暴力件数として報告することがあるなど，きめ細

やかな指導を行う中で認知件数が増加しているものと捉えている。

（委員からの主な意見）

【柴原委員】

- 大麻等の有害性については、大人でも間違っ認識している人はいるのか。

【柴田副所長】

- 映画等でも大麻を吸うようなシーンがあるので、大人でも認識を間違っている人はいると思う。

【柴原委員】

- 高校生の検挙が増加していると報告があったが、検挙する時は、複数でいるのか、単独でいるのか？

【柴田副所長】

- 複数の場合もあったし、単独の時もある。

【岸本委員】

- 少年が補導された後にどのような支援を行っているのか？

【柴田副所長】

- 学習支援については、大学生ボランティアによって行っている。立ち直り支援としては、山登りや清掃活動を実施している。

【小槻委員】

- 以前に、薬物の使用等については、各校で研修等を行い防止に努めていると聞いているが今も継続しているのか？

【事務局】

- 京都市立学校の全校で非行防止教室を実施している。

【岩井委員】

- このような非行事案は、単独なのか、グループなのか？学校を見ていると、以前はグループが多かったと思うが。

【柴田副所長】

- 共犯の場合もあるし、単独の場合もある。

【岩井委員】

- どちらが多いとかはあるか？

【柴田副所長】

- どちらが多いとは特にない。

令和2年度取組について（児童生徒の心のケア等）

（事務局から説明）

- 「こころとからだのアンケート」について集計結果を報告。

実施対象校は244校中242校で実施した。残りの2校は自校で独自の調査を実施した。対象児童生徒のうち98%が回答をした。

実施時期は、令和2年6月1日～12日で、ストレスの度合い、学校生活への楽しみ、休業期間中の家族との関係、休業期間中の生活の規則正しさといった4要因でアンケート調査をした。

主な結果として、ストレスの度合いは、児童生徒の状態はおおむね安定していることが伺えたが、中学生以降は、ややストレスが高くなる傾向が見られた。一方では、高い点数を示す児童生徒も一定数い

るため、一人一人の要因を的確に見極め、適切な支援を行うことが必要だとわかった。

学校生活への楽しみについては、多くの子どもたちが学校生活を楽しいと感じていることが伺えたが、一方では、低い得点を示す児童生徒もあり、適切な支援が必要なことがわかった。

また、休業期間中の家族との関係については、全学年で肯定的な回答となる比較的高い点数となり、多くの子どもたちが、休業期間中に家族との親密な関わりがあったことがわかった。全ての学年を通して、女子の方が男子よりも点数が高く、家族との関わりが多いと感じていることが示唆された。

休業期間中の生活の規則正しさについては、小学生では、全学年で休業期間中に規則正しい生活を送っていたことが伺われたが、中学生では学年があがるにつれて生活が不規則になる傾向があり、高校生でも中学校3年生と同程度の結果が見られた。

調査項目との関連については、「学校生活が楽しいと感じている。」「休業期間中に規則正しい生活を送っていた。」「休業期間中に家族との親密な関わりがあった」ということに肯定的な子どもたちはストレスの度合いが低い傾向にあることがわかる。

年代別に見ていくと、小学生の場合は、早寝早起き、中学生の場合は家族と過ごす気持ちが落ち着く、高校生の場合は学習習慣を維持できていた。に肯定的な回答をしている場合、ストレスの度合いが低い傾向がみられた。

この案件については、今回だけで終わることなく、継続して活用するように各校へ依頼している。

○「京 SNS 相談」について

SNS を活用した相談は今年で3年目となる。対象生徒は市立中学生及び高校生とした。コロナ関係の相談については、第1期ではあったが、第2期ではコロナに関する相談はなかった。

令和3年度から府市協働の相談窓口とし、新たに市立総合支援学校（中等部・高等部）も対象に追加し、京都府内公立・私立の中学校・高等学校・特別支援学校を合わせ、約14.2万人を対象として、相談窓口を開設予定。

○京都市こども未来会議について

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一同に会する会議は中止とし、各校の取組を紹介するポスターを全校に配布。

小学校では、参加予定37校の取組を冊子化して全小学校に配布。中学校では生徒会議2020「Team Kyoto プロジェクト～コロナに負けるな中学校！～」と題し、各校の特色ある取組をまとめ、全校に配信するとともに、各校において任意抽出した中学校3年生約1,700人を対象に、「通いたくなる学校アンケート」を実施した。

生徒会主任担当の先生が中学3年生にアンケートを実施し、3年生から1・2年生に伝えたいことを聞いた。新型コロナウイルスの関係で学校行事が中止や縮小になったことに悲しい気持ちになったが、各校が努力し、学年別の体育大会や発表会等を実施した。特に修学旅行については、中学校は、行き先を変更した学校もある。

（委員からの主な意見）

【柴原委員】

- 修学旅行等は、全国各地域によって実施できている地域と、できていない地域があると聞いている。京都市は行けない学校もあったのか？

【事務局】

- 目的地が沖縄から、近くなった等の縮小は生じたが、中学校は全校実施できている。宿泊数も短くなった学校もある。小学校ではまだ未実施の学校があるが、3月から順次実施予定。

【大森委員】

- 「こころとからだのアンケート」の結果で、ストレスが少ない子どもが多くて驚いた。PTAでも6万人の保護者に対してアンケートを実施し、2万人ぐらいから回答をいただいた結果、親は子どものストレス等が心配だという方が多数という結果だったが、保護者と子どもたちの思いの認識が違うことがわかった。

学校行事にしても、今年は何も実施できないと思っていたが、学校が努力して様々なことを実施してくれて、保護者としてとてもうれしかったし学校に感謝したい。

【事務局】

- 「こころとからだのアンケート」では、概ね良好な結果だったが、一方で、一定気になる児童生徒がいるので、子どもたちの様子を丁寧に見ることが大事だと考えている。

【柴原座長】

- 6万人とは対象はだれなのか？

【大森委員】

- PTAメールに登録していただいている保護者約6万人を対象に、メールでアンケートを実施したところ、1週間の締切で2万人の保護者から回答をいただいた。保護者も誰かに伝えたい気持ちが強かったのだと思う。

【柴原座長】

- そのアンケート結果は共有しているのか？

【佐藤副座長】

- 教育委員会でも共有しており、非常にありがたく活用させていただいた。

【柴原座長】

- ストレスをためてる保護者の影響が、子どもにも影響する。両方から見ることを大事だと思う。